

平成 22 年度

事業所名 : グループホーム 千鳥苑

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390500031		
法人名	社会福祉法人 寿水会		
事業所名	グループホーム千鳥苑		
所在地	〒028-3185 岩手県花巻市石鳥谷町8-1-1		
自己評価作成日	平成22 年 11 月 4 日	評価結果市町村受理日	平成 23年 2月 23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0390500031&SCD=320>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成22年11月17日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

大自然の中で、お風呂は温泉を使用し快適な入浴を勧めている。ともに「笑顔でゆったり憩ういえ」家庭的な環境の下で入所者が趣味の時間を思い思いに過ごしていただき、入所者中心のケアに努めている。昔ながらの季節の行事を欠かすことのないよう、入所者から情報を得ている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

春は緑、秋は紅葉と自然に囲まれた花巻市石鳥谷大瀬川地区に所在し、温泉施設を改修した建物で、源泉掛け流しで入浴できるお風呂が楽しみとなっている。ホームは「和顔愛語」の理念の下、管理者・職員は、利用者の生活習慣を大切にしながら、ホー一回は必ず笑ってもらうようにしようと心がけ支援に努めている。また、日常的な散歩は神社・公民館コースと二つ設定し、近所の人たちと会話を楽しみながら、花を摘んだりしての散歩は、健康管理と四季を感じる良い機会となっており利用者の表情は明るく安心して暮している様子が窺える。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

事業所名 : グループホーム 千鳥苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「和顔愛護」の理念を掲げ、掲示して随時確認しながら業務を行なっている。	穏やかで親しみやすい対応を趣旨とする独自の理念をつくりあげ、ホールなど職員や利用者・家族が見やすい場所に掲示し、皆が共有しながらケアにつなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	各種行事に参加している。出席する毎に声を掛けられる回数が増えている。野菜や花等も頂く。	自治会に加入し、運動会や敬老行事などに参加したり、ホームで主催する新年会などの行事には老人クラブやボランティアでお世話になった人達を招待し交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員は研修を受け、認知症の理解を深め、介護のレベルアップに努めている。地域貢献の準備はできており、相談を受けた時は、答えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の場で現在の問題点を提議し話し合っており、解決策を考えていただき、サービスにつなげている。	2ヶ月に1回開催し、入居者の体調や日常生活、活動状況等を報告している。また交番所長の出席により安心安全の様々な話題に丁寧に説明しているほか、近くへの熊の出没による駆除の話題が出る等、地域の話題が出し易い環境、雰囲気の話題となっている。	会議の開催が3ヶ月毎から2ヶ月毎の開催となっており、今後とも工夫しながら持続しサービス向上に活かされる事を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、市町村職員に参加していただき、当施設の実情や、入居者の状態を報告し相談している。介護保険の実情や高齢者福祉の現状も伺っている。	包括支援センターは運営推進会議のメンバーであるが、介護保険課にも、年2～3回ゲストとして出席いただき情報交換をしたり、生活保護受給の利用者について相談したりして協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が、身体拘束をしないケアを理解している。日々の申し送り等でケアを振り返り、話し合い再確認している。	利用者が玄関に行ったときは「どうしたの」「散歩する」等と会話や希望等を聞き、意向に沿って一緒に散歩に出かけたり、利用者が自由に出掛けるときは、後に付き見守り支援している。なおセンサーコールやマットを見守り用として活用し玄関には鍵をかけていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は虐待の防止について理解が深く、職員は各研修を通し、高齢者虐待防止関連法について学んでおり、職場で回覧を行い周知している。入居者への言葉掛けなども注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各種研修の中に権利擁護に関して学ぶ機会があるので、受けた者は全職員に報告し周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に担当職員とケアマネージャーと複数で、面接の際、ご家族やご本人に説明を行い、理解、納得していただいている。解約の場合も同じである。改定の際は文章で知らせている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約の時に苦情申し立ての説明を行なうとともに、投書箱を設け、苦情処理委員会を開いている。	利用者・家族から意見を聞く機会として、家族の面会時や、同行通院した時などを捉えているほか、毎月家族に健康状況等のお手紙を出す際に家族の意向の把握に心がけている。なお、家族からリハビリパンツや尿取りパットなどの利用に関する相談がありその都度丁寧に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員会議を開き、職員の意見や、要望を聞くようにしている。業務の改善や提言を出され、参考にしてている。	毎月開催する職員会議で、ヒヤリハットの検討、正月休み等の休日の在り方、散歩時間の変更などの提案が出され、具体的な検討を行い運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度があり職員が向上心を持って働けるよう意見を聞いたり、助言している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には、苑内研修の時間を多く取り、各個人の力量に沿った教え方をしている。外部研修は、資格に応じた研修を受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は、岩手県グループホーム協会や花北ブロックの定例会に出席し、交流を行なっている。昨年からは、花北ブロックのグループホーム交換研修が行なわれ、職員が参加しサービスの向上に役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談で、生活状態を把握するよう努め、また入所者本人の求めている要望を叶える様努め、不安を持たないよう考慮し、職員が入居者に受け入れられるよう対応している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に「私の気持ちシート」を作成している。ご家族と話し合いをしながら、関係を深め、事業所としてはどのような対応できるか事前に話し合いをしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時にご本人の思いやご家族の考え方を前面におき、支援方向を決めるようにしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日生活する中で、入所者から古くからの行事の様子や、料理の事等伺い参考にしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ご家族に手紙を書き入所者の生活の様子を伝えている。ご家族は状況を理解しているので、面会の時は、入所者を中心に良好な関係を保っている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力を得ながら、お盆の墓参りを行なっている入所者がいる。	散歩やごみ処理の際にあった近所の人と声を掛け合い馴染みになったり、元職場の仲間の来訪やホームを回訪問する床屋さん、補聴器販売業者、食材販売業者と親しくなり挨拶を交わし馴染み関係を築いたりして繋がりが広がるよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の時間の他におやつはみなさん一緒に摂っていただき、楽しく過ごす時間としている。気の合う者同士で過ごしている場面には立ち入らず見守っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された入居者の家族からボランティア受け入れの話をいただき現在も続いている。他施設入所の利用者に面会して様子を伺っている。必要あれば家族に電話をする事もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員会議やカンファレンスで話し合う場としている。また職員の申し送りノートを利用し、全ての事を共有するよう努めている。	普段の生活の中で意向や希望等の把握に努め気をついたことを生活日誌に記録し、一日3回の勤務交替時の申し送りでは、その時の課題や一人ひとりの思いや意向を把握し共有に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	「私の気持ちシート」や「介護計画書」を通じて生活歴や現状の把握に努めている。本人のバックグラウンドをしるため面会時の情報を大切に、全体像を知るチャンスとしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「業務日誌」「生活日誌」を見て現状の把握に努めている。入所者一人ひとり生活に沿った援助を行なうように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族が来苑時ケアについての希望や意見を伺っている。本人の生活の中での会話から察知し、栄養士、看護師の意見も入れ、介護計画に役立てている。	面会時や通院時などに家族から聞いたり、必要によっては医療関係者からも聞き、毎日記録している生活日誌を活用し、毎月のカンファレンスで前回のプランを見直し、続けるかどうかを検討してプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活を「生活日誌」に記録している。いつでも全職員が確認できるよう申し送りで情報を共有して業務に入っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族通院であるが、都合が悪い時は、職員が同行している。入所者の不足品があると、家族の了解の上、買い物に出掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の体育祭に応援に出掛けている。敬老祭のイベントに参加している。地区公民館での検診に出かけ、健康管理の参考にしている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族通院であり、入所後も続けている人もいるが、家族の希望で変更する人もいるので、事業所は、どこにでも参考になる情報を提供している。	本人・家族の希望するかかりつけ医となっているが、家族から相談があれば病院を紹介して変更する場合もある。同行受診の場合はお手紙や電話などで報告しており受診できるよう努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に看護師が入所者の体調を管理しているが、職員が変化に気付いた時はすぐ看護師に報告し、相談して必要であれば通院している。家族への連絡も行なっている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する時は、情報を提供している。入院中の病状の把握は家族から連絡を受ける。退院し戻られる時は、病院から情報をいただくが、家族と一緒に説明を受けている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	昨年ターミナルケアを経験している。ご家族、医療機関、看護師と十分話し合い、納得の上意志確認を行ないながら、書面に残り取り組んでいる。色々な場面が考えられるので、さらに職員が勉強する機会を必要とする。	ホームとして看取り経験を持っているが、看護師など職員構成も変わっており、また身体状況の変化に応じ重度化や家族の状況によっては、早い時期から医療機関と連携をとり、ホームとして可能な限り支援するとしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	隣接するケアハウスにAEDを設置している。年2回避難訓練で応急手当や人工呼吸、AEDの使用など心配蘇生法を習得し方が一にそなえている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ケアハウスとともに夜間を想定した避難訓練を行なっている。地域の防災協力員や、ボランティアに協力していただいている。消火器や避難路の確認、設備点検を受け、非常食料品、備品を用意している。	夜間想定した訓練を消防署立会いのもと、また地域防災協力員の支援、協力の中で避難訓練を実施している。また、AEDや消火器の訓練をも併せて実施し安全安心の確保に努めている。なお11月にはスプリンクラー設置を予定している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人前であからさまに介護したり、人前で大きい声で誘導して本人の自尊心を傷つけないようにしている。	失禁や着衣失行等の時は「お部屋に戻りましょう」と落ち着いて声がけ誘導するほか、利用者の行為に対しては感謝の気持ちで「ありがとう」と言葉を返すなど、日常の生活で自信と自尊心を損ねないよう配慮しながら支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを図る中で、日常会話から情報を得たり、本人の思いを伺い参考にしている。雑巾を縫う材料を用意したり、野菜を育てている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとり一日の暮らし方が決まっているので、職員はその他の事の提案をするが、本人に決めていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の気温、気分に合わせて洋服を一緒に選んでいただいている方もいる。外出時は吟味して選ぶようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえ、盛り付け、配膳、食後の片付けを職員と一緒にこなしている。それぞれ役割を持っている。嫌いな物は入れないで代用している。	入居の最も長い方の「頂きます」との発声のもとで、利用者と職員と一緒にテーブルを囲み食材や出来事を話題にしながら食事をしている。また、食事の楽しみとして旬のもの、好みや苦手なものを踏まえたメニューに工夫が見られる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がいるので、栄養のバランスを考え提供している。口腔内の事情から、刻み食の人もいる。飲水量は職員が意識しながら関わって、不足の時は、居室に持参することもある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は声掛けを行い、出来ない方は見守りや、援助を行なっている。除菌の洗口液を使用中の入所者もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙パンツやパットを使用している入所者に時間を決めて、声掛けや誘導を行なっている。汚染防止や清潔保持に努めている。拒否の強い方には、タイミングをみて行なっている。	排泄チェック表を作成し個別対応しているが、尿意のない方にもトイレ排泄できるよう支援するため、2時間おきの人や朝食後、昼食前、午後1時と3時とし、トイレで排泄することで不安の軽減の支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘は食生活に影響するので、手作りヨーグルトを使用したり、繊維質の含む食品を考慮している。毎日の散歩、テレビ体操も取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	温泉である事をアピールしている。入浴を拒む人に対し言葉掛けやタイミングをみて対応している。全員、見守りや、介助が必要なので、入る順番を聞いて満足するよう援助している。	入浴は温泉付きの風呂で、男女別で、日曜を除き毎日入浴できるが、午後1時から4時までとなっている。入浴したくない人には、衣服を脱ぐことへの不安や羞恥心に配慮し、言葉掛けやスタッフを変えたりして工夫しながら対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室で過ごされている方はラジオやテレビを観ています。昼寝は、強要していません。夜間は静かで安眠できています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、職員が内容を把握できるようにしている。服薬確認は、ひとりの職員だけでなく複数の目で行って、変化の確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者が食事の手伝い、花の水遣り、ゴミだし等毎日進んで行なって下さる。買い物、ドライブ、行事の参加等、入居者の意見を聞きながら行なっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	筋力低下防止も含め毎日散歩に出掛けています。散歩しながら季節の移り変わりを言葉にしています。散歩道の方からお花を頂いたり、野菜をいただくこともある。	ホームの周辺に、神社・公民館と二つの散歩コースを設け、日常的に散歩できるようにしている。また、日曜日には買い物など、季節にはドライブや花と緑のまつりに出掛けたり、家族の協力を得て自宅や周辺などへ行ったりして外出の機会をできるだけ多く持つよう努めている。	散歩コースを設定して、日課として積極的に取り組んでおり、利用者と地域住民との交流を図るとともに、健康維持からも継続されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則的にお金の所持は認めていないが、例外的に一人だけ持っている。不安材料を作らないよう努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	申し出があれば、電話を掛ける援助をしている。定期的到手紙や電話が来ている方は、時々返事の手紙を書いている。不穩時に家族に協力していただき電話を掛ける事がある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	散歩時、花を取って花瓶に生けている。天窓があり、まぶしいくらいの明かりが入っている。季節が分る物を玄関に置いている。冬期間和室に炬燵を設置している。使用するよう声掛けしている。	玄関にはスロープを設置し廊下等には手すりを取り付け、ホールには、テレビとテーブルを配置し畳敷きの小上がりをつくり炬燵を置いて、壁には創作のはり絵や写真を飾り、今は、おもちゃカボチャで季節感をつくり、安心して自由に過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室でくつろげるようソファを提供している部屋がある。気の合った入所者同士で自室でお話をして過ごされる事もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室に畳を用意したり、冬期間炬燵を用意されている入所者もあり、心地良くすごされている。	ベッドや洗面台、物干しは備え付けとなっているが、使い慣れた整理ダンス、テレビ、家族の写真、仏壇などを持参し、職員と一緒に配置や飾り付けし居心地よく暮せるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入所者の身体状況に合わせて、開設時にはなかったが、浴室に手摺を増やし、玄関にも手摺を設置し、より安全面に配慮して、見守りで自由に歩いていただいている。		